

会議録(要旨)

会議名等	令和5年度当事者会 11月定例会	文責	障がい福祉室
日程	令和5年11月16日 午後1時30分～3時30分	場所	総合福祉会館 5階大広間

1. 情報共有

■会長から 千二小学校における講座実施について報告

吹田市社会福祉協議会からの依頼により、11月15日に千二小学校の小学三年生186名に対し、心のバリアフリーについて講座を行った。一方的に話すものではなく、生徒たちからも意見や感想を仰ぎ、キャッチボール式のやりとりを目指した。生徒たちが積極的に手を挙げてくれることが多く、「人にやさしくするにはどうしたらよいか」という視点で様々なことを考えてもらう機会になったと感じている。

今後、当事者会委員に対し、このような依頼が再びあるかもしれない。その際は、ぜひ協力をお願いしたいと思っている。

■会長から「京都市版ヘルプカード」について

カラー版で作成されており、京都市情報館のホームページからPDFダウンロードが可能である。内容は簡潔にまとめられており、様々なトラブル(災害、事故等)に際し、「わたしの情報」「知ってほしいこと、助けてほしいこと」「緊急連絡先」「医療情報」等の情報の記載が可能である。

また、「京都市版ヘルプカード」に類似した内容で、携帯アプリにも複数の種類がある。例えば、障がい者手帳をデジタル化できる「MIRAIRO(ミライロ) ID」がある。自身の障がい特性や、必要としている支援を周囲に発信する方法として、様々な媒体があることを今後も情報共有していきたい。

【意見】

・様々な媒体が生まれるのは良いことだが、実際に使えるかどうかは別の話である。例えば、障がいのある子どものワクチン接種履歴の登録を試みた際、デジタル庁が提供する「新型コロナワクチン接種証明書アプリ」を使用した。本人名義の携帯電話でないことを理由に登録できなかった。このことを含め、本人証明ができなければ登録できない、使用できないといったことが頻回にある。その他にも、住民票を取る手続きにおいても、本人であればコンビニで発行できるが、後見人は法務局まで行かなければならない。仕方ないと思う反面、不便だと感じる気持ちも払拭できない。

・制限が多いと、いざ必要とする場面で手間がとられることになる。特に障がい者においては時間がかかることが多く、一つの差別に繋がるのではないかと感じている。

・「マイナンバーカード」は健康保険証の内容を紐づけることができるが、障がい者医療、自立支援医療などの情報は紐けられないため、結局は「マイナンバーカード」以外にも医療証を付帯しなければならない。

・「マイナンバーカード」に、障がい者手帳や利用している障がい福祉サービスの内容を紐づけることができればと思う。

■A委員から セブンイレブン尼崎店で受けた入店拒否について

令和5年9月に電動車椅子でコンビニに入店しようとした際、入店拒否を受けた。バリアフリー化の推進を基本とする潮流の中で、身近なコンビニがインフラサービスを提供する上で、障がい者の権利や合理的配慮を無視するようなことがあってはならないと感じた。入店拒否についてはセブンイレブン本部に連絡済で、「障害の有無に関わらずサービスを届けるべきであったにもかかわらず、権利を侵害したとの認識である」と回答があった。再発防止、及び合理的配慮の浸透を目的として、A委員からセブンイレブン社員

に対し11月末に勉強会を実施する予定である。

2. 危機管理室より 出前講座「吹田市の防災について」

「吹田市の防災について」、出前講座を受講した。

【質問】

・災害時、市と企業との連携はあるか。

(回答)アサヒビールや JR が挙げられる。アサヒビールは防災会議において共に防災計画を立てるなどの活動がある。災害時の帰宅困難者や避難者への対応、情報連携、避難所設置等について、市と企業で連携を取っている。

・講座の中で、黄色い布を掲げて安否確認をする、といった内容があったが、吹田市独自のものか。

(回答)吹田市独自ではなく、全国的な取り組みであると思う。

・福祉避難マニュアルはあるのか。

(回答)「福祉避難所設置・運営マニュアル」はある。内容については、地域の声も収集しながら、今後も改善を進めていく。

・行動障害(声をあげる、じっとしてられない)のある方においては、それぞれの特性によって避難所での生活が現実的でないことが多い。避難所における配慮や、環境整備についてどのように考えているか。

(回答)「福祉避難所設置・運営マニュアル」の第 5 条に障がい者や高齢者への配慮に関する内容を設け、部屋の配備や環境整備についても意識を持つようにしている。

【意見】

・過去に小学校で実施された防災訓練に参加したが、車椅子使用者は自分だけであった。障がい者や高齢者等の災害弱者は、災害時の移動が最も困難である。様々な状況を想定して、障がい者や高齢者の参加をもっと促進すべき。

・出前講座の内容について、障がい者の防災に関する内容が乏しかった。障がい者の防災には、停電時の電源確保や、空間における配慮等、重要視すべきことが多くあるし、知るべき情報であると思う。

・今回のような出前講座は有益であり、市民に対してより広く行うべきだと感じた。

・最近自治会に所属しない市民も増えている。そのような層は出前講座の案内や、防災に関する取り組み、地域活動に参加する機会を失っているのではないかと思う。

・黄色い布を掲げて安否確認をする取り組みについて、有効的であると思った。子どもを中心にもっと広めてほしいと思う。

・障がい特性に応じた環境への配慮がどこまで可能であるか懸念している。障がい者に向けて一室を設ける程度の意識では足りないということを理解してほしい。

- ・小学校での防災訓練に参加した際、教室は段差がありスロープが必要であることを実感した。木板等の代替も検討したが耐荷重によっては利用できない障がい者の方が多いと思う。
- ・災害時は、ほとんどの障がい者にとって環境や物資の問題があるため、在宅避難が現実的であると思う。

以上